

4月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

4月のテーマ：新型コロナウイルス感染症と子どもの感染対策

人に感染して発病するコロナ感染症はこれまで6種類あり、SARS（重症呼吸器症候群）、MARS（中東呼吸器症候群）以外はごく普通のかぜとして過ごされてきました。7種類目の今回の新型コロナウイルス感染症は2019年12月、中国湖北省武漢で最初に報告され、急速に流行し、肺炎を起こし死亡する感染症として、2020年1月WHOはCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）を世界的大流行として注意を呼びかけました。2021年3月の時点では世界で1.1億人、日本で47.7万人、2022年3月世界では4.5億人が感染し、死者数は6.02百万人、日本では3月16日現在591万人の感染、死者は26,625人になりました。

COVID-19（新型コロナ）は武漢の発生から、次々と変異株が出現、 α （アルファ）株から \omicron （オミクロン）株の5株、さらに \omicron 株には亜種としてBA.1,BA.2の2種類が問題になっています。一般的には普通のかぜ、特に軽いかぜとの区別が付き難いです。今、流行中の \omicron 株は発熱、全身倦怠感、咳の他、咽頭痛があり、子どもではクループ様の咳、呼吸障害がみられ注意する必要があります。また、津市内でも子どもの感染が増加しています、その感染様式は家族内感染が大部分です。子どもの感染は海外でも、成人より感染、重症者も少ないですが、中には重症児もあり、死亡例の報告も見られます。また、国内でも海外と同様に小児多系統炎症

性症候群（多くの臓器の炎症として、新型コロナウイルス感染後、2~6週後に下痢、発熱、発疹などがみられ、心臓の血管、筋肉の炎症に伴い、心臓の動きが悪くなることのあるのが特徴）の報告もあります。特に、川崎病に似た症状を示す方もみえます。患者数は少ないですが、いずれも治療によって回復しています。

診断は臨床症状を加味し、PCR検査、抗原検査をします。

小児の場合の治療ですが、必要となるものは、ほとんどなく、発熱に対しては解熱鎮痛剤のアセトアミノフェンを使います。重症化した場合は成人同様、酸素吸入、ステロイド、レムデシビルという抗ウイルス薬を使うこともあります。

子どもの感染対策として保護者は次のような事に注意しましょう。家族をはじめ、子どもに接触する大人たちはワクチンを積極的にしましょう。子どもと触れ合う時は不織布のマスクを正しい方法で着用しましょう。 \omicron 株では、さらに空気感染がし易いので、部屋の換気に努めましょう。ただし、自分でマスクを着け外しができない年少児や障害のある小児では、窒息や誤嚥を避けるため、保護者は十分な注意を払い見守りましょう。三密を避け、さまざまな行動制限を設けることは子どもの心の健康に与える影響は大きく、感染対策と心の健康バランスを十分に考え、日々保育、療育、育児、子育てをしましょう。



新型コロナ変異株のまとめ



	α アルファ株	β ベータ株	γ ガンマー株	δ デルタ株	\omicron オミクロン株
報告年月	2020年 12月	2020年 12月	2021年 1月	2021年 10月	2021年 11月
初期流行地	イギリスで最 初に報告	南アフリカで 最初に報告	ブラジルで最 初に拡大	インドで同じ 系統が最初に 報告	南アフリカ が最初に報告
感染力	↑	↑	↑	↑↑	↑↑↑
症状	発熱、咳、 全身倦怠感、 頭痛、息切れ、 時に下痢、 吐き気、 味覚・臭覚障 害	発熱、咳、 全身倦怠感、 頭痛、息切れ、 時に下痢、 吐き気、 味覚・臭覚障 害	発熱、咳、 全身倦怠感、 頭痛、息切れ、 時に下痢、 吐き気、 味覚・臭覚障 害	発熱、咳、 全身倦怠感、 頭痛、息切れ、 時に下痢、 吐き気、 味覚・臭覚障 害	発熱、咳、 全身倦怠感、 頭痛、咽頭痛、 時に咳以外の 呼吸器症状、 吐き気、おう 吐、下痢、 覚臭・覚障害
重症化リス ク	入院・重症化 死亡リスク 高い	入院リスク、 死亡リスク 高い	入院重症化リ スク 高い	入院リスク 高い	入院重症化リ スク 低い
ワクチン効 果	2回接種であ り	2回接種であ り	2回接種であ り	2回接種であ り	下がるも3回 目の追加接種 で再び効果が 上がる